

大学図書館問題研究会 京都

〒607 京都市山科区大宅山田町 34 京都橘女子大学図書館 田北十生気付
(Tel) 075-574-4118 (Fax) 075-574-4124

★ 5月号 (147号) でご案内しました「職員問題」ミニ研究集会報告者のみなさんに報告要旨を書いてもらいました。

★★★この号は、「報告趣旨特集」です。★★★



日時	7月5日(土) 11:00 ~ 17:00
会場	ハートピア京都
参加費	500円
申込先	京都大学総合人間学部図書館 堤美智子宛
	tel 075-753-6524 fax 075-753-6896

「職員問題」ミニ研究集会報告のさわり-1

★基調報告★

大学図書館における職員問題を考える (配転問題を含む)

報告者 寒川 登

★ 職員問題を考える上での視点

図書館の問題であり、大学の問題であり、社会の問題である。

★ 専門性論議

1. 大学図書館の現状

(1) 大学をとりまく情勢

教育改革の動向

◆ 中央教育審議会「審議のまとめ」

「21世紀を展望した我が国の教育のあり方について」

◆ 国立大学のあり方について

「独立行政法人」/ 民営化

◆ 財政構造改革5原則

達成時期 2003年、今世紀中の3年間を集中改革期間と設定

入学定員の削減

目次	大学図書館における職員問題を考える (配転問題を含む) 1頁
	業務委託の現状と意味について 2頁
	専門職制度は可能か 6頁
	国立大学における定員削減と定員外職員について 7頁
	大図研京都数珠つなぎ⑩ 8頁
支部報に関するご意見は最寄の支部委員または編集気付 (京都橘女子大学 ☎ 075-574-4118 <FAX075-574-4124> ♥ kazuodesu@jsn.justnet.or.jp) 田北まで	

教員養成系 5,000人
その他 5,600人 (臨時増加分)
歳出改革 / 縮減

◆大学改革の推進

自己点検・評価 / 「大学設置基準」(平成3年改訂)で制度化

大学教員任期制

学術の振興 → 科学技術創造立国

生涯学習の振興

概算要求方針

・組織・定員の見直し

・大学の事務機構を一元化の観点から抜本的に見直し、事務職員の定員について削減を図るとともに、教員養成課程の入学定員の削減などを図る。

・第9次定員削減計画上乗せで約3,000人を削減

(2)研究動向 科研費、教員任期制 / 業績主義

(3)図書館動向 電子図書館

2. 職員をめぐるこれまでの経緯

(1)国の施策 / 委員会報告

(2)業界団体の主張 専門性論議

3. 図書館業務の現状

(1)学生サービス

(2)ネットワーク / 電子図書館

(3)インターネット

(4)研修



4. 課題

ひと

もの

かね

(大阪教育大学 図書館 さむかわ・のぼる)

★報告者及び編集者より読者の方へ「お断り」

ここに掲載されている報告者の報告レジメは、当日の報告と必ず一致するものではありません。ここに報告されている内容は、あくまでも「さわり」です。むしろ、当日報告は、さらに深められた報告が予定されていますので、あらかじめ読者のみなさんにお断り申し上げておきます。

業務委託の現状と意味について

報告者 井上 雅人

1. はじめに... 例会のねらい

1) 大図研職員問題研究集会にむけて

(報告にあたっての留意点)

- ・立命館が築いてきた到達点をできる限り紹介する
 - －総長公選制、全学協議会方式、長期計画、業務会議
 - ・立命館における「多様な雇用形態」の推進
 - －恒常的な業務見直し、業務再編、クレオテックの設立、契約職員制導入、
 - ・第5次長期計画の重要課題としての「図書館政策」
 - ・大学図書館職員をめぐる課題－「ガイドライン」(95.8)からの視点
- =>「利用者と資料を知り、これを結びつける」図書館員の専門性の向上

2) 民間企業における業務委託の今日的意味

- －今日言われているアウトソーシング(業務の外部委託)はこれまでの業務委託と異なり、以前はコアと考えられてきた業務を外部に委託。
- さらに大企業が賃金、人事政策、リストラの一環として事業に着手

2. 立命館大学図書館における「多様な雇用形態」の経験と業務委託の実際

... 96年度の総括、自己評価まとめ、図書館政策、および96年関西4大学研修会資料を基礎に、目録業務の外部委託の概要を報告

(1) 図書館における業務委託の経験

- ・90年：第1次図書館システム「RUNNERS」
 - －経常図書入力業務、遡及入力を派遣業者によって

(2) 「96年図書館改革」と図書館政策

1) 96年図書館改革の柱

- 第2次RUNNERSの稼働、電子図書館化を追求、
- 開館日・開館時間の見直し、図書資料の合理的、効率的保存、研究用資料の学生開放
- 図書購入方式の見直し、選書・発注・受入業務の合理化
- 目録業務の迅速化と外部委託
- 資料提供サービスの充実と外部委託

(3) 図書館政策

... 情報ネットワークの進展と新大学、経済・経営学部の草津キャンパス移転による複数キャンパスという状況下で図書館サービス、管理運営、収書、貸し出し、職員の力量形成を検討

3. 96年図書業務改革

(1) 基本的方向

- 1) 図書業務の合理的、効率的執行、業務の全学集中、目録・装備の委託
- 2) 購入方式の改革、選書データベースの活用、発注データからOPACで開放
- 3) 専任業務の重点化、専門的力量形成と人事政策の見直し
- 4) 研究支援サービスの強化

(2) 目録業務の現状

<専任業務> 専任(4)、契約(1)

- ・非図書資料、キリル文字等の一部洋書、中国書の目録作成、洋書の分類付与
- ・システムのメンテナンス、NACSI S-CAT、学内データベースの調整委託に関わる業務管理、マニュアル等の整備、目録政策等企画立案

<委託A> 作業員(3)

- ・目録作成業務—オリジナル、流用

(当初、情報源コピーによる学外作業であったが、現在は学内で資料現物から目録作成)

<委託B> 作業員(7)

- ・自動システム(NAC-P C)による登録、複本処理、請求記号の入力、装備

(3) 今後の課題

1) 経済・経営学部の草津キャンパス移転の具体化と衣笠キャンパスの再整備

2) 図書館政策の具体化

- ・図書館と研究棟の業務見直しと部課の再編
...研究棟における図書資料、情報提供サービス業務の図書館への統合
総合情報センターと図書館との統合
- ・複数キャンパス下での図書予算、収書方針・基準、資料貸出等の見直し
- ・図書館職員の専門性の追求と育成政策
—学術情報研究員、選書アドバイザー、アカデミックアドバイザーの検討

【参考】

1) 機構—図書館(衣笠キャンパス)、メディアセンター(草津キャンパス)

各学部共同研究室(7学部)、理工学部(草津)

2) 職員構成

館長(1)、次長(1)—研究部次長兼務、
情報管理課—課長(1)、補佐(2)、専任職員(11)、契約職員(18)、アルバイト(3)
情報サービス課—課長(1)、補佐(1)、専任職員(9)、契約職員(5)、
アルバイト(11)

3) 蔵書構成—和漢書(123万冊)、洋書(57万冊)、雑誌(3万タイトル)

4) 年間受入冊数—和漢書(53,000冊)、洋書(25,000冊)

(立命館大学 図書館 いのうえ・まさと)

専門職制度は可能か

— アメリカの大学図書館における専門職制度から見て —

報告者 篠原俊夫

1. アメリカの専門職制度を検討することの意味について

日本の大学図書館における職員問題は、見方によってはいかなる意味でも比較の対象とはなり得ないと言える。アメリカの大学図書館は原則的に有資格者の専門職集団のみによって運営されているが、日本の場合、国立大学の図書館が比較的専門職集団に近い存在である他は、私学の医学図書館に典型的に見られるように特に制度的な裏付けはなくても、他の事務部門との配転を行わず結果的に擬似的な専門職制度らしきものを敷いている程度である。

日本の大学図書館がアメリカの大学図書館を理想的なモデルとして、常に検討の対象としてきたことは疑いない。しかし、理想の追求は専ら外面的、技術的なものにとどまり、専門職制度の根幹に関わる図書館学教育の制度的問題や職員の採用や待遇に関わる問題を根本的に検討する主体がなかった。

2. アメリカのライブラリー・スクールにおける図書館学教育の現状と問題点について

黄金の60年代を過ぎて、70年代の末頃からはじまったライブラリー・スクールの閉鎖は1990年6月には名門のコロンビア大学ライブラリー・スクールの閉鎖にまで至り、内外の図書館員に衝撃を与えた。

メルヴィル・デューイがコロンビア大学に図書館学校を開設したのが1887年といわれているが、ほぼ100年余を経て、その役割を終えたことになる。しかし、本当にその役割を終えたのか、そのことの本当の意味が問われなければならないだろう。学内の政治的力学の問題なのか、学問的位置づけの問題なのか、あるいは職業としての図書館員の需要が減退したか、職業としての吸引力が低下したことからくる学生数の減少から必然的に生まれてくる需給関係の結末にすぎないのか、そして現在のライブラリー・スクールはどのように対応しようとしているのかという問題等について検討する。

3. 職員集団の現状と問題点について

アメリカの大学図書館が歴史的に強固な専門職制度を敷き、それが時として有能な他分野の人材の参入を妨げるものとして裁判をおこされたこともある。この裁判には勝利して、専門職制度そのものは守られているが内部的に様々の問題を抱えている。

もともと職員集団はALAの認定するライブラリー・スクールで図書館学修士の資格をもつ専門職とそれをサポートするパラ・プロフェッショナル(準専門職)、それに事務職員等からなる。図書館運営の根幹に関わる部分は当然、専門職集団によって方針が決定される。パラ・プロフェッショナルや事務職員が関与することはない。

図書館運営の意志決定に関与できない準専門職は専ら実行部隊として日常業務の遂行にあたらなければならない。図書館業務の電算化のため、専門職の仕事であったものが下方に移行して準専門職の仕事になったり、教員身分をもつ専門職として研究業績を求められる事情もあって現場から退く時間が多くなると業務の担い手としての準専門職の仕事上の比重は当然高まり、それに見合った待遇を求める準専門職集団の不満は高まる。

その折り合いをどうつけるのか、また準専門職から専門職にスムーズに移行できる道筋が明示できているのか、これらの問題を日本の大学図書館の現場に対比しながら、検討する。あわせて、コンピューター技術者やシステム・アナリスト等の他分野の専門職との共存をどうはかっているか、どのような問題に直面しているのかというような問題について検討する。

4. 専門職であることの根拠としての継続研修について

大学図書館問題研究会の元委員長の酒井さんの言では建築技師の卵達は当初殆ど使いものにならないようなレベルで建築事務所に入ってくるが専門職集団が手取り足取り教えながら一人前の建築技師に育てていくということである。専門職集団が専門職集団たり得る根拠はまず集団として人材を教育して後継者を育てていく能力であると思う。

図書館専門職の世界でそれはどうすれば可能なのかを検討する。

5. 専門職としてどんな能力を求められているのか、それは歴史的にどう変遷したか。

どんな専門職が求められているかということと、どんな専門職を育てるかは不即不離の関係である。求められる人材を育てるという観点から求人広告を分析して、それに見合う図書館学のカリキュラムを編成することで求職戦線でも有利な立場を確保したいとする動きもある。図書館員に求められる能力とは何かを検討する。

6. 図書館協会の役割について

アメリカの図書館の専門職制度が様々の困難に耐えて存続し得ているのは、ALAの力によるところが大きい。専門職集団の利益のために、図書館の知的自由の擁護のために奮闘してきた。この役割をになうのは日本においてはだれなのか。日本図書館協会なのか、あるいは、あらたな組織があるべきなのか等の問題について検討する。

7. 専門職の世界を取り巻く最新事情と専門職の将来について

マルチメディア、ボランティア、アウトソーシング、パラプロフェショナル、テクノロジー等の言葉が氾濫する。それらは一見無秩序に飛び交っているかに見えるが、それぞれが有機的なつながりをもっている。それらのもっとも新しいいくつかのキーワードにふれながら最新の問題点を検討する。

8. おわりに

以上のようにアメリカの大学図書館の専門職制度の検討をおこない日本における専門職制の可能性を検討してみたいと考えるが、現段階では殆ど白紙に近い状態で結論めいたものに結びつけることができるかどうかはわからないというのが正直な気持ちである。

また、ここにあげた全てに触れるわけでもないかわりにここに書かれていない事項につ

いても当然取り上げて検討することはあり得る。

(京都大学総合人間学部 図書館 しのはら・としお)

「職員問題」ミニ研究集会報告のさわり-4

国立大学図書館における定員削減と定員外職員について

報告者 堤 美智子

1968年に開始された国家公務員の定員削減は、1997年度5年間にわたる第9次定員削減にと引き続き、国家公務員定員は国家的な政策として減らされています。

今回のミニ研究集会では、京都大学のケースを一例として、30年間にわたり定員がどのように減らされていったのか、図書館業務の推移とともにたどり、報告しようと考えています。

京都大学附属図書館では、大規模な国立大学図書館として、この30年間に、現在の建物の建築にあたって旧建物の取り壊し、移転、移転場所での仮住まい、新築建物への移転、程なく業務のコンピューター化、その後、3回にわたるリプレースなどの激動期を経てきました。

定員の削減や事務機構の改変で役職ばかりが増加していきました。このような状況は図書館の仕事に、ひいては利用者へどのような影響を及ぼしたかを報告し、今後ますます拡大する仕事の現場での人の問題への悪影響を明らかにしたいと考えています。

(京都大学総合人間学部 図書館 つつみ みちこ)

支部委員会だより

第11回/於・同志社大学クローバーハウス/6月3日(火)午後7:00～

【主な議題】

- ① 支部報編集内容について(6月号、7月号、8月号)
原稿依頼状況の確認、掲載内容の調整。
- ② 「職員問題」ミニ研究集会について
各テーマと報告者、プログラム、参加申し込み状況、会計などについて検討
- ③ 総会について → 9月26日(金)18:30～20:30 於 京大会館
日時、会場、総会議案書、予算・決算について。
- ④ 会費の納入状況と会員現勢。会員の異動について
- ⑤ 全国委員会の報告と全国大会の日程
日時 8月23日～25日 会場 つくし会館(宿泊先 アークホテル)
■ 出席:篠原、竹本、大館、中嶋、井上、田北

●---●---●●●---●●●---●---●●●---●---●●●---●---●●●---●---●●●---●---●●●---●
| 戦慄の新コーナー!!

● 国際日本文化研究センター かしかわ ちかこ |

● 大図研京都数珠つなぎ 第17回 資料課 西川 慈子 さん ●

近 況 報 告

大図研京都支部の皆様、お久しぶりです。いつも会報でご活躍のことさすがやなあと感心し、尊敬の念で読ませていただいています。

私、西川はどこで何をしてるんや、もう大図研も辞めたんとちゃうかとかご不審のかたもおられるでしょうか。(そんなに気にしてくださってるわけもないかと少しひねくれて) こんな立派な「数珠つなぎ」に登場する資格もないのですが、京都橘女子大の若奥様、秋山さんのご紹介なのでノコノコ出てきたわけです。

まあ32年も勤めた京都大学を去って1年。ここいらで近況報告です。

京都市西京区桂坂にある国際日本文化研究センター(日文研)の資料課に「日本研究資料専門官」という長ったらしいワケワカラン名称を頂いて座っています。

毎日何をしてるのかって？

仕事してます。来年の3月に出す「日文研所蔵日本関係欧文図書目録」を作ってます。と言いたいところですが、本の中身は手が出なくて会議資料や会計や業者との折衝に走り回ると言うのがほんとのところです。

京都の東の端(山科に住んでます)から西の端まで通って来て、勤務時間内はバタバタ走り回るかワープロにむかっている私です。

ここは大学とは違い、静かで空気が香しくて建物が綺麗でエエトコですよ。ヒバリの声(ほんまもののヒバリ)を最近聞いたことがありますか。野生のクレソンをいためて食べたことがありますか。昼休みにタラの芽採りに行って来ました。

前の空き地から収穫したウドの天ぶらを食べました。

ここではいつも風が吹いています。夕焼けの空も星空もとても素敵です。図書室の光の中にいると、まるでコクトーの巻貝の中にいる自分を感じると書いてくださった見学者の言葉がありました。

西川にも、日文研にも会いに来てください。「赤おに」でご馳走します。

ではまたお便りします。お元気でご活躍ください。私も總會・研究会・懇親会など参加できるようにがんばりますので。

次回は、新任バリバリの係長で張り切られる、可愛いお目目の川北さんをお願いします。

「数珠つなぎ」のルール

- ①内容は硬軟自由。②原稿量も1ページ程度以上で自由。③執筆するには次回執筆者を指名する義務があります。④指名された人はもちろん拒否権なし。